

350年ぶりの仮遷座 大寺の熊野神社

豊和地区大寺の熊野神社で9月28日、老朽化した本殿などの建て替えのため、ご神体を本殿から仮殿に移す「仮遷座祭」が約350年ぶりに執り行われました。

同神社の創建は、857年または961年の2説あるといわれ、現在の本殿は1675年に完成。以前から老朽化が進み、おととしの台風の影響も重なり、建物全体のゆがみや雨漏りなどもしていました。仮遷座祭は、神職や同地区民らが出席し、小忌衣姿の氏子らが、ご神体を白布で覆うようにして仮殿に運びました。神社総代長を務めた桑田輝雄さん(大寺)は「地区の皆さんに喜んでもらえるような神社になれば」と期待を込めていました。新しい本殿などは来年秋には完成予定です。



白い布で囲いながらご神体を運ぶ氏子ら



感謝状を手にする吉井さん(左)と難波署長

声を掛けて電話de詐欺被害を防止 吉井さんへ警察署長感謝状

電話での詐欺を未然に防いだとして、ファミリーマート土屋八日市場駅前店の店員・吉井和子さんに対して10月5日、匝瑳警察署・難波透署長から感謝状が贈られました。

吉井さんは9月12日、高額な電子マネーカードを購入しようとした60代の男性に対し、購入理由を確認。男性が「パソコンに警告画面が出てきたので指定の番号に電話したところ購入を指示された」と答えたため、不審に思い警察に通報し、被害防止に至りました。吉井さんは「最初は『大丈夫だよ』と言われましたが、対話を続け警察を呼ぶ了解を得ました」と話していました。また、同店では9月16日にも、高額な電子カードを購入しようとした客に対し、店長が声を掛けて被害を防止したとのことです。

さまざまな分野で連携を 立正大学との包括連携協定を締結

市と立正大学は10月10日、教育・文化・産業・まちづくりなどの分野において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に、包括連携協定を締結しました。同大学と市はこれまでも生涯学習事業などで連携してきましたが、今後はこの協定に基づき、地域産業の発展や環境保全などについても連携を図っていきます。

締結式は、同大学の“発祥の地”と言われる飯高寺(飯高檀林跡)で行われました。同大学・須田知樹副学長は「匝瑳市には海や山林があるので、この協定を足掛かりに、仏教にとどまらず自然科学などの分野でも連携、協力していきたい」と話しました。



協定書を手にする須田副学長(左)と太田市長(市役所)

クロマツ約350本を植栽 津波などの被害防止と景観形成のため

八日市場青年会議所主催で10月24日、吉崎浜でクロマツ植栽事業が実施されました。これは持続可能な開発目標（SDGs）のうち「気候変動に具体的な対策を」などの達成を目指して行われたものです。

植栽には約70人が参加。参加者はクロマツの植栽が津波などの被害防止や海岸線の景観形成につながるという説明を受けた後、クロマツの苗木約350本を1本ずつ植えていきました。同会議所SDGs推進委員会の伊藤正樹委員長は「クロマツの管理は今後続けていくので、草刈りなどに協力いただきながら皆さんと成長を見守っていければ」と話しました。



穴を掘ってクロマツの苗木を植える参加者



御城印について話す山城ガールむつみさん

山城の魅力でまちおこしを 匠瑳城郭保存活用会が結成されました

匠瑳城郭保存活用会の結成を記念して、歴史・山城ナビゲーターの山城ガールむつみさんや匠瑳市郷土史家の依知川雅一さんによる講演などが11月7日、八日市場公民館で行われました。

ここで言う「城」には、天守閣のある城だけでなく、人々が目的を持って土を盛ったり掘ったりして作ったものも含まれます。山城ガールむつみさんは講演で「匠瑳市内には30以上の城跡がある。城の歴史を掘り下げることで、市民の地元への愛着の形成や、歴史を通じた他の地域とのつながりができ、それが“まちおこし”につながっていく」と話しました。

高齢者などの買い物支援に 移動スーパーが市内を巡回

株式会社カスミによる「移動スーパー」が11月15日から運行を開始しました。これは、買い物に不便を感じている人などを支援するため、市と同社で締結した包括連携協定に基づき実施されているものです。

移動スーパーを利用した92歳の平山こうさん（生尾）は「いろいろな品目があって良かったです。（高齢なので）とてもありがたいです」と笑顔で話しました。

（生尾コミュニティセンター）
地元の人に利用される移動スーパー



秋の味覚収穫 開畑でサツマイモ掘り体験



サツマイモを掘る参加者

市内の小学生とその保護者を対象にしたサツマイモ掘り体験が11月14日、豊和地区の飯塚開畑ほ場で行われました。

このイベントは昨年につき2回目の実施で、参加者約70人が、サツマイモ（シルクスweet）を収穫。子どもたちは、手を土まみれにして掘った“秋の味覚”を、袋いっぱい詰めて持ち帰りました。